はその集積は軽度であった．浸潤性胸腺腫と胸腺癌では腫瘍シンチグラフィ上集積パターンは異なっており，その集積パターンは組織型を反映している可能性がある．

17. ^{99m}Tc-MIBI SPECT の頭頸部腫瘍に対する使用経験

中川　富夫　竹田　芳弘　栄　勝美
清水　光春　安藤　由智　河原　道子
赤木　史郎　新屋　晴孝　平木　祥夫
(岡山大・放)

Technetium-99m-MIBI (^{99m}Tc-MIBI) は新しい心筋血流イメージング製剤であるが，一方様々な腫瘍への集積性が指摘されている．本剤は低被曝線量・高画質であり，SPECT においても鮮明な画像を得られる利点を有しており，良好な腫瘍イメージングが期待できる．頭頸部腫瘍 4 例に対して ^{99m}Tc-MIBI シンチグラフィを施行し，腫瘍シンチグラフィとしての有用性について検討した．対象は男性 2 例，女性 2 例で年齢は 47 歳から 76 歳までである．それぞれの腫瘍は上顎癌，蝶形骨洞癌，上咽頭癌，側頭下窩腫瘍の各一例ずつである．撮像条件は SPECT 像 early image は ^{99m}Tc-MIBI 600 MBq を静注 15 分後より360 度回転，一ステップ6度で，ステップあたり 15 秒のデータ収集を行う．Delayed image は静注後 3 時間後にスキャンする．正常組織の集積は early image では耳下腺，顎下腺，鼻腔，甲状腺，脈絡叢に強くみられた．Delayed image では甲状腺への集積が淡くなっていた．腫瘍組織とのコントラストについては delayed image では不良となり，腫瘍イメージングとして early image の有用性が示唆される結果であった．

18. 甲状腺腫瘍のタリウム集積と PCNA による腫瘍増殖能の対比

久米　典彦　西垣内一哉　菅　一能
内迫　博路　(山口大・放)
中西　敬　(済生会下関総合病院)

われわれは，甲状腺腫瘍 31 症例 (良性腫瘍 7 例，悪性腫瘍 24 例) について，Tl シンチの集積程度と PCNA (proliferating cell nuclear antigen) による腫瘍増殖能について検討したので報告する．

PCNA Index (%) は，悪性腫瘍で 35.0 ± 18.7% と，良性腫瘍の 16.8 ± 12.8% に比較して有意に高値を示した．

また，Tl シンチ上，delayed scan の集積程度が (++) と強いものを悪性とすると，sensitivity 90.5% であった．そして，集積程度が強い腫瘍の PCNA Index は 39.2 ± 18.5% と，集積程度の弱いものに比較して有意に高かった．Tl 集積が腫瘍増殖能と関連があることが推測された．

19. ^{99m}Tc-MAA 血流シンチグラフィによる経過観察を行った転移性肝癌の 1 例

姫井　健吾　佐藤　修平　金澤　右
竹田　芳弘　田中　朗雄　清水　光春
新屋　晴孝　平木　祥夫　(岡山大・放)
岩垣　博巳　日伝　晶夫　(同・一外)

症例は 64 歳，男性．結腸癌の肝転移に対し皮下に留置したリザーバーより肝動注および門注化学療法を施行している．リザーバーからの ^{99m}Tc-MAA による肝動脈および門脈血流シンチにて経過観察を行った．治療当初，腫瘍は CT，血管造影，肝シンチにて明瞭に検出できていたが，2 回目以降の CT と血管造影，肝シンチでは動注，門注に伴う薬剤性肝障害によって，腫瘍の存在が不明瞭となった．しかし，肝動脈血流シンチでは腫瘍の存在を指摘することができた．血流シンチを複数回施行することによって，肝内の注入薬剤の分布のみならず，治療効果や薬剤による肝障害をある程度推測することができた．

21. ^{99m}Tc-GSA の臨床評価

中西　敏夫　谷口　金吾　(広島大・放部)
伊藤　勝陽　(同・放)

肝機能指標として，Tc-GSA の簡単な指標は HH15, LHL15 が一般的に用いられている．しかし LHL15 がほぼ同様な値でも肝機能障害の程度が明らかに異なる症例もあり，これらの症例では肝への集積曲線と心臓からのクリアランス曲線が異なっていることに

Presented by Medical*Online